１８．鎌田　實氏（諏訪中央病院　名誉院長）

「医療・福祉分野のポテンシャルを活かした“健康都市”、レトロと豊かな自然を感じながら歩くことを楽しめる“ウォーカブル都市”を目指してほしい」

鎌田實（かまた　みのる）
北九州市アドバイザー。
東京医科歯科大学医学部卒業。諏訪中央病院へ赴任。30 代で院長となり赤字病院を再生。地域包括ケアの先駆けを作った。ﾁｪﾙﾉﾌﾞｲﾘ、ｳｸﾗｲﾅへの国際医療支援、全国被災地支援にも力を注ぐ。現在、諏訪中央病院名誉院長、日本ﾁｪﾙﾉﾌﾞｲﾘ連帯基金顧問、JIM-NET 顧問、地域包括ケア研究所所長、風に立つﾗｲｵﾝ基金評議員（他）。武見記念賞受賞。

「市の魅力と“市民力”を原動力に」

北九州市は人口が 100 万人近い都市でありながら、良い意味での「田舎の風情」も残っている、多様な顔を持っている巨大都市。門司港レトロをはじめとする多くの観光資源と豊かな自然は、北九州市が市外の人々にアピールすべき魅力です。

また、北九州市は、日本の明治以降の近代化や高度成長を支えてきた都市であり、重工業の衰退や公害の問題に対しても、市民が一丸となって取り組むことができる「市民力」を有するまちであると言えます。

北九州市のこうした魅力と「市民力」は、今後のまちづくりを進める上での大きな原動力となるのではないでしょうか。

「医療・福祉分野の蓄積を活かす」

北九州市は医療費が高いまちだとよく言われます。しかし、これも見方を変えると、最先端で高水準の医療を受けられる都市であるということになります。

かつてカテーテル治療が普及していない時期に、市内の病院が日本で最先端の技術を持っていました。

北九州市の医療･福祉分野のこれまでの蓄積を活かし、誰もが健康に過ごすことのできるまちづくりを進めることで、「健康都市」として北九州市を対外にアピールすることもできるのではないでしょうか。

そして、海外の富裕層などが最先端の医療サービスを受けるために北九州市を訪れるような流れをつくることができれば、「稼げるまち」の実現にもつなげることができると考えます。

また、市民の健康寿命が伸びることで、少子高齢化によってますます増加する社会保障費の抑制にもつながります。そして、社会保障費の削減によって生まれた余剰を市民の健康づくりや子育て支援のために活用することで、さらにまちの魅力を高めることができると思います。

「豊かな歴史文化と自然」

北九州市には、かつて重工業の集積があったことから、特に沿岸部には歴史があり魅力的な個店や飲食店も多く残っています。そして、歴史を感じることができるレトロな風景や豊かな自然は、多くの人を惹きつける魅力を有しています。

「市民も誇れる北九州を目指して」

ニューヨーク・タイムズ紙の「2023 年に行くべき 52 カ所」として、ロンドンに次ぐ２番目に盛岡市が選定されているのを目にしました。そこでは、おしゃれな喫茶店や書店などが紹介され、そのような店舗を歩いて巡ることができるところが盛岡市の魅力であるとされていました。

先に述べたように、北九州市にも歴史ある魅力的な個店や飲食店が多くあり、豊かな自然が生み出す景観を有しています。

このような強みを活かしてレトロと自然を感じながら歩くことを楽しめる「ウォーカブル都市」を目指して、これからのまちづくりを進めてみてはどうでしょうか。

さらに、医療・福祉分野のポテンシャルを活かした「健康都市」を目指して、子育てしやすいまち、シニアがいきいきと暮らせるまちを実現することで、北九州に住みたい、住み続けたいと思う人も増えるのではないでしょうか。

北九州市が市外の人々にとって魅力的なまちになることで、移住者が増えるだけでなく、北九州市民が北九州に誇りを持てるようになることを期待します。